百人一首を覚えよう！　その３（21～30）

２１．今来むと　いひしばかりに　長月の　有明の月を　待ち出でつるかな
いまこむと　いひしばかりに　ながつきの　ありあけのつきを　まちいでつるかな）

（素性法師（そせいほうし）＝ 僧正遍照（№１２）の子）　「古今集」

２２．吹くからに　秋の草木の　しをるれば　むべ山風を　あらしといふらむ
（ふくからに　あきのくさきの　しをるれば　むべやまかぜを　あらしといふらむ）

（文屋康秀（ふんやのやすひで）＝ 小野小町（№９）と親交）　「古今集」

２３．月見れば　千々に物こそ　悲しけれ　わが身ひとつの　秋にはあらねど
（つきみれば　ちぢにものこそ　かなしけれ　わがみひとつの　あきにはあらねど）

（大江千里（おおえのちさと）　博学の儒者）　「古今集」

２４．このたびは　幣も取りあへず　手向山　紅葉の錦　神のまにまに
（このたびは　ぬさもとりあへず　たむけやま　もみぢのにしき　かみのまにまに）

（菅家（かんけ）（845 ～ 903）＝ 菅原道真（すがわらのみちざね）
学問の神様　太宰府天満宮）　「古今集」

２５．名にし負はば　逢坂山の　さねかづら　人に知られで　くるよしもがな
（なにしおはば　あふさかやまの　さねかづら　ひとにしられで　くるよしもがな）

（三条右大臣（さんじょうのうだいじん）（873 ～ 932）＝ 藤原定方）「後撰集」

２６．小倉山　峰のもみじ葉　心あらば　今ひとたびの　みゆき待たなむ
（おぐらやま　みねのもみぢば　こころあらば　いまひとたびの　みゆきまたなむ）

（貞信公（880 ～ 949）＝ 藤原忠平（ふじわらのただひら）　「拾遺集」

２７．みかの原　わきて流るる　いづみ川　いつ見きとてか　恋しかるらむ
（みかのはら　わきてながるる　いづみがは　いつみきとてか　こひしかるらむ）

（中納言兼輔（ちゅうなごんかねすけ＝ 藤原定方の、いとこ）　「新古今集」

２８．山里は　冬ぞ寂しさ　まさりける　人目も草も　かれぬと思へば
（やまざとは　ふゆぞさびしさ まさりける　ひとめもくさも　かれぬとおもへば）

（源宗于朝臣（みなもとのむねゆきあそん）（ ～ 939）　＝ 光孝天皇の孫「古今集」

２９．心あてに　折らばや折らむ　初霜の　置きまどはせる　白菊の花
（こころあてに　おらばやおらむ　はつしもの　おきまどはせる　しらぎくのはな）

（凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）　古今集の選者の一人）「古今集」

３０．有明の　つれなく見えし　別れより　暁ばかり　憂きものはなし
（ありあけの　つれなくみえし　わかれより　あかつきばかり　うきものはなし）

（壬生忠岑（みぶのただみね）　古今集の選者の一人）　「古今集」